Close Up クローズアップ 四輪販売会社

# お客さまにHonda SENSINGの効果を正しく理解していただく体感試乗会の拡大に向けて

**Honda SENSINGは衝突軽減ブレーキ（CMBS）をはじめとする安全運転支援システムである。HondaはHonda SENSINGを幅広い車種に標準装備化するとともに、より多くの人にその効果と正しい使い方を理解していただく取り組みを進めている。そして、2025年度はHonda Cars（四輪販売会社）がHonda SENSINGの体感試乗会の場と機会を提供しやすくするための環境を整備した。**

近距離用ターゲットを使って誤発進抑制機能と近距離衝突軽減ブレーキを体感

体感試乗会は全国各地のHonda Carsで行われている。Honda Carsのスタッフ※1が運転する車両に同乗する形でお客さまに衝突軽減ブレーキなどを体感してもらい、各機能の能力には限界があり、各機能の能力を過信せず、安全運転することの重要性を伝えるという内容だ。体感試乗会の開催にあたっては安全の観点から様々な条件が定められており、その一つに「8m×60m以上」のスペースで実施するという条件があった。そのため、条件を満たすスペースを確保できない販売拠点は開催することが難しかった。この課題をクリアするため、Hondaは新たにダミーターゲット（近距離用ターゲット）を開発し、より狭いスペースで体感試乗会を行えるようにした。この近距離用ターゲットを用いると、「駐車枠2台分×6m以上」のスペースで、Honda SENSINGのうち近距離衝突軽減ブレーキ※2を、「駐車枠2台分×13m以上」のスペースであれば、誤発進抑制機能（前進のみ）※3と近距離衝突軽減ブレーキを体感できる。

愛知県内で新車販売9拠点を展開するHonda Cars 三河（本社：愛知県岡崎市）は、これまで近隣の自動車教習所などで体感試乗会を40回以上実施してきた。「体感試乗会は多くの方にHondaの先進の安全技術に触れていただける貴重な機会です」と、同社 常務取締役 営業部長 蓮川利幸さんはいう。「高齢者の方はHonda SENSINGを体感すると『これが付いていれば安心して運転を続けられる』とクルマを買い替えるきっかけにしていただけます。また、自治体のイベントで体感試乗会を行う時は、これから運転免許を取得する高校生にHonda車の魅力をアピールできます」。

Honda Cars 三河は体感試乗会の拡大を図るため、近距離用ターゲットを導入した。「これまで体感試乗会は広い会場でしか実施していませんでした。スペースの条件が緩和され、近距離用ターゲットの設営も手軽にできるので、体感試乗がやりやすくなります」。

同社は、8月21日に近距離用ターゲットによる体感試乗会を開催するための社内研修を実施。Hondaが策定したマニュアルを確認しながら会場設営の手順を確認した。その後、体感試乗会の運営を担当するスタッフがお客さま役の社員に誤発進抑制機能と近距離衝突軽減ブレーキを体感してもらい、効果的な安全アドバイスをするためのロールプレイングを行った。

「10月に出展する自治体のイベントは割り当てられたスペースが狭いので、近距離用ターゲットによる体感試乗会を行う予定です。イベントでの活用だけでなく、商談中のお客さまに拠点の駐車場でHonda SENSINGをすぐに体感していただくことも考えています」と蓮川さんは今後を見据える。

※1 体感試乗会を運営するために必要な研修を受講したアドバンスド・セーフティコーディネーター。セーフティコーディネーターは、お客さまに店頭などで安全アドバイスができるHondaの社内資格。
※2 約2km/h～約10km/hの低速走行・後退時、フロントおよびリアバンパーのセンサーが、前方または後方の障害物を検知。衝突するおそれがある場合、ブレーキを制御し衝突回避や衝突による被害の軽減を支援する。
※3 停車時や10km/h以下の低速走行時に、システムが近距離にある壁などの障害物を検知（車種により検知対象は異なる）。アクセルペダルを踏み込んだ場合の急な発進を防止するとともに、音とディスプレー表示で警告する。

8月21日の社内研修にはHonda Cars三河の社員20名が参加した

お客さまに見立てたスタッフにHonda SENSINGの効果と限界を説明

後退（クリープで実施）での近距離衝突軽減ブレーキも体感することができる

Honda Cars 三河 常務取締役 営業部長 蓮川利幸さん

Close Up クローズアップ 教育プログラム

# Hondaが開発中の自転車教材の運用方法を地域の交通安全指導者と検討

**8月21日と22日の両日、Hondaが主催する「交通安全教育プログラム勉強会」が虎ノ門アルセアタワー（東京都港区）で開催された。この勉強会は、地域の交通安全指導者が相互の指導方法の確認や意見交換を通じて、指導力の向上に役立ててもらうこと、交通安全指導者の知識と経験を新たな教育プログラムの開発に活かすことを目的としている。**

今回の勉強会には全国8地区から交通安全指導者16名が参加した。

2026年4月の改正道路交通法の施行によって自転車教育の重要性が高まることから、Hondaは生徒（中学生・高校生）を対象にした新たな自転車教材を開発している。今回の勉強会では参加者が4つのグループに分かれ、この教材の運用方法などについて検討を行った。開発中の教材はデジタル版とアナログ版で提供することから、それぞれをどのように活用すれば効果的か、各グループで討議。その後、グループごとに討議した内容を発表し、参加者全員で共有した。勉強会を通じて得られた参加者の意見やアイデアは今後、自転車教材の開発に活かされる予定だ。

さらに、SAFETY MAP※の活用についても討議。小学生（高学年）を対象にSAFETY MAPを使う場合の指導のポイントや手順を参加者に話し合ってもらった。

勉強会を終えた参加者は「討議では、自分たちが行う交通安全教室でのHondaの教材の具体的な使い方をイメージすることができました。また、他の参加者からうかがった指導内容や手法を今後の活動に取り入れようと思っています」「新たな自転車教材はデジタル版とアナログ版の両方を作成している点が良いと感じました。交通安全教室の対象に合わせて使い分けることができます。教材が完成したら、すぐに使ってみようと思います」と感想を語った。

※Hondaが開発し、2013年からインターネット上で公開している交通安全情報を共有できるデジタル地図ツール。日本中を走るHondaインターナビ（双方向通信型のカーナビ）搭載車から通信で送られてくるデータをもとにした急ブレーキ多発地点情報をはじめ、事故多発エリア情報やゾーン30情報などを地図上に表示している。また、危険を感じた場所を投稿して共有することも可能。パソコンやスマートフォンがあれば誰でも自由に閲覧できる。**https://safetymap.jp/**

交通安全教育プログラム勉強会には北海道、茨城県、長野県、福井県、岐阜県、兵庫県、愛媛県、福岡県から交通安全指導者16名が集まった

1日目は参加者が相互に活動内容や交通安全教育の手法、教材を紹介

2日目にはグループ討議が行われ、参加者が活発に意見を交換

自転車教材やSAFETY MAPについて討議した内容を発表